



改正

竹葉集

元板



女清見住来



葉間堂文庫

凡婦人女子の女書者其書も

しんあつて中書者見清見

物と云細くとのみりては

中書者其書も今も在る年始

七種と云初云新出七百の書者春

いふの目も及き法は往後の方より

四つと云後ひ類ありては梅方其履

梅方其履法は其書者其法は梅方其履

其法は其書者其法は梅方其履

其法は其書者其法は梅方其履

其法は其書者其法は梅方其履

女書

第... 浦... 初... 夜... 威... 寂... 寂... 寂... 寂...
あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく...

第... 浦... 初... 夜... 威... 寂... 寂... 寂... 寂...
あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく... あまのりく...

御定之威書奉年をの尾書をの御出度けんめい
 定書あんの御出度けんの御出度けん
まじりの御出度けんの御出度けん
 御定之威書奉年をの尾書をの御出度けんめい
 定書あんの御出度けんの御出度けん
まじりの御出度けんの御出度けん
 御定之威書奉年をの尾書をの御出度けんめい
 定書あんの御出度けんの御出度けん
まじりの御出度けんの御出度けん

御定之威書奉年をの尾書をの御出度けんめい
 定書あんの御出度けんの御出度けん
まじりの御出度けんの御出度けん
 御定之威書奉年をの尾書をの御出度けんめい
 定書あんの御出度けんの御出度けん
まじりの御出度けんの御出度けん
 御定之威書奉年をの尾書をの御出度けんめい
 定書あんの御出度けんの御出度けん
まじりの御出度けんの御出度けん

物物後編細編湯子想一重編
睡緒湯物法同神抄頌讚哉其宜也
余世序之古法孔聖後世成也
沙拔毒那之教中一方之密性也
く御年軍縁対系受之教云男姑尔
孝所及以中世向は後生を包目揚す

沙港納平は五姑一家内秘多箇
布衣富女市或果市公分泥よき
藏後世後之所有尾能慈心法
里園正聲入余法海は常補千
秋百歳養孝法限も正目如及は統
依款の山初之者出別深は安養

常子抄 実生に從生 沙面人ぬとも
築末の連を宗心也もあ在紀立成法
あ秋極 後には海は所者世沙七
秋名存は夜食食は統一府重の月一死
をこのは後世は務も忠受者解は先版
也秋連は法は秋名は台と能法は合を

後之くお絶は是と交は務と交は
其後及は其痛何角收是は治は所
宗海法は為り書 此子乃方治交也
成人は成る能る名 沙出は後法目也
は物治は 痛殺は後法目也
は麻末の海是く 中は氣の毒を抄補

下書

二

何等の法去産調法を宗法とす
用を金銀の爲に持て返せば
大々失念連り心なきは配
いとお教を授けしむるは
とては先んて爲るべきは
とては先んて爲るべきは
とては先んて爲るべきは

遠く遠くは道中を志す
旅の儀は世に道法を
此道は世に道法を
此道は世に道法を
此道は世に道法を
此道は世に道法を
此道は世に道法を
此道は世に道法を

儂心率也擗清中及自任使後漢中
幸芳然... 沙多音... 所著... 必及...
儂心率也擗清中及自任使後漢中
幸芳然... 沙多音... 所著... 必及...
...

... 抱... 必... 必... 必... 必...
抱... 必... 必... 必... 必...
...

婦人... (Vertical text columns)
 婦人... 夫... 母...
 婦人... 夫... 母...
 婦人... 夫... 母...
 婦人... 夫... 母...

後母... 後母... 後母...
 後母... 後母... 後母...
 後母... 後母... 後母...
 後母... 後母... 後母...



地本問屋
草席問屋

東都南傳馬町一丁目

葛屋吉藏梓

